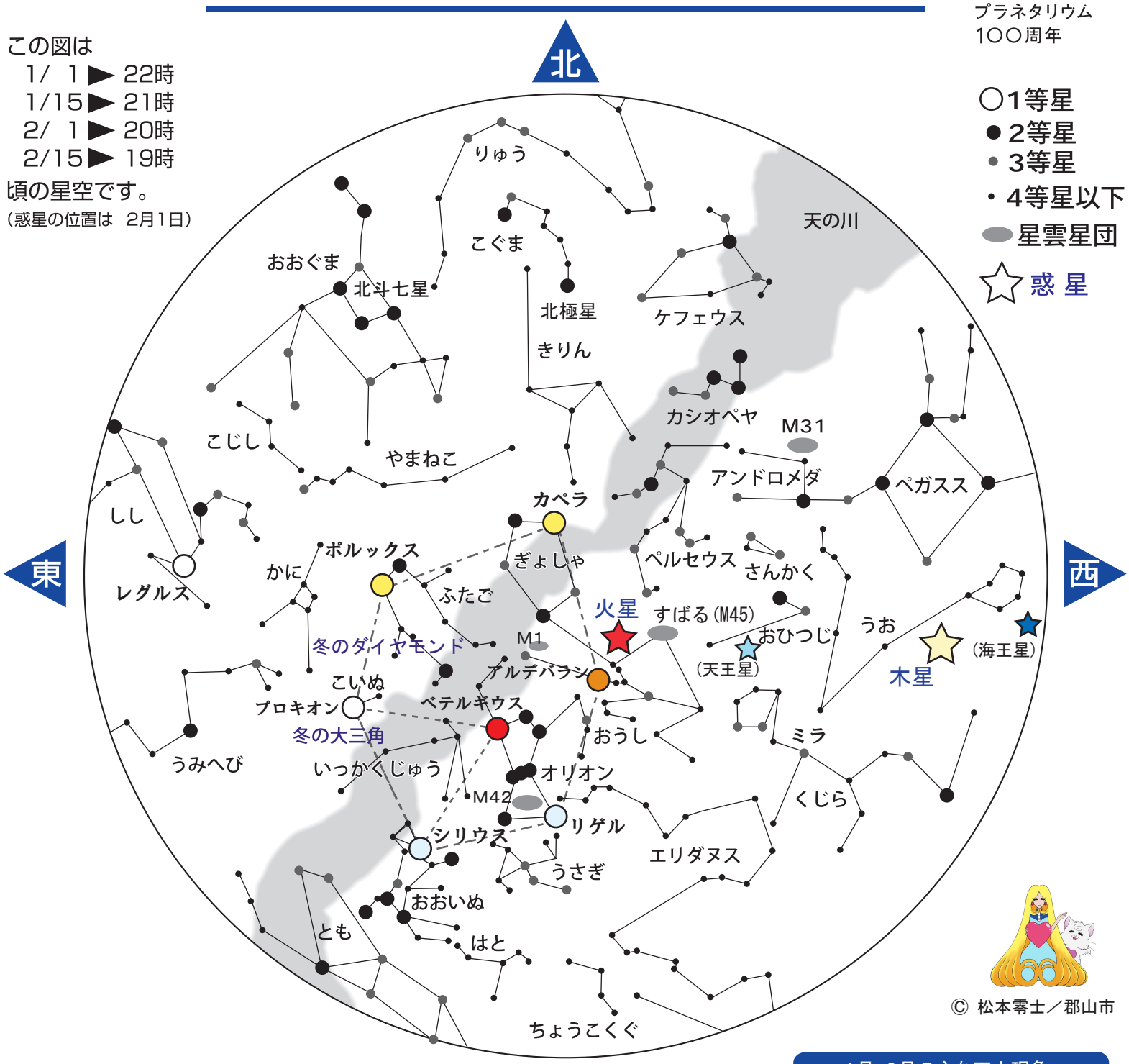
2023年 1月▶2月の星空

プラネタリウム
100周年

この図は
1/ 1▶22時
1/15▶21時
2/ 1▶20時
2/15▶19時
頃の星空です。
（惑星の位置は 2月1日）

○1等星
●2等星
•3等星
・4等星以下
星雲星団
☆惑 星



© 松本零士／郡山市

郡山の日の出.日の入		
1/ 1	6:50	16:34
1/15	6:49	16:47
2/ 1	6:39	17:05
2/15	6:26	17:20

月の満ち欠け	
新 月	1/22, 2/20
上 弦	1/29, 2/27
満 月	1/ 7, 2/ 6
下 弦	1/15, 2/14

※上弦、下弦は半月です。
※天王星は肉眼では見えません。

1月・2月の主な天文現象	
1/ 4	しぶんぎ座流星群極大
1/23	金星と土星が接近
1/30	水星が西方最大離角

１等星が多い冬の時季に今年は木星や火星の赤い姿も加わり、いつも以上に夜空を見上げたくなるようなきらきらと美しい星の世界が広がります。冬を代表するオリオン座は２つの１等星を持ち、きれいに並んだ３つ星は良い目印となります。オリオンの肩の星が「ベテルギウス」、足元の星が「リゲル」です。赤と白の色の対比が新年の紅白を連想させ、新たな年の訪れを感じます。オリオン座の「ベテルギウス」からおおいぬ座の「シリウス」、こいぬ座の「プロキオン」を結んでできる冬の大三角もぜひ南の空で描いてみてください。

肉眼で楽しめる星空に双眼鏡や望遠鏡を足していくと、より深い宇宙の世界が広がります。「オリオン大星雲（M42）」はガスの集まる星雲で、星が産声を上げる星のゆりかごです。「かに星雲（M１）」は超新星残骸という爆発した星の姿が残っており、中心からのガスの広がりが素敵な天体です。星の誕生から最期の姿まで、望遠鏡を使うと星の一生を覗くことができます。これらのように毎年同じ時季に見られるものがある一方、特定の時期やその時限りの天体もあります。2022年に発見されたZTF（ズィーティーエフ）彗星（C/2022 E3）は今年の１月から２月にかけて６等前後まで明るくなると予想され、双眼鏡で楽しむことができます。１月はかんむり座からこぐま座にかけて北へ移動し、２月は火星やおうし座の「アルデバラン」に大きく接近するためぜひご注目ください。

スペースパーク
郡山市ふれあい科学館